沖縄県指定　天然記念物

万座毛石灰岩植物群落

万座毛は恩納集落の西側に位置し、新生代第四世紀の琉球石灰岩からなる崖地です。海側は高さ約20mの崖となっており、崖の上の平坦地はコウライシバやタイワンカモノハシが茂った広場となっています。琉球石灰岩の表面は、雨や風にけずられて穴があいていたり、割れ目があったりします。ここは水分が少なく、たえず強い塩風が吹きつけるきびしい環境条件の場所です。この場所には、きびしい環境に耐えられるような特殊な植物が多く生えています。例えば、ハナコミカンボクやオキナワスミレ、オキナワマツバボタン、イソノギクなどは、琉球列島の植物の分布を考える上で重要な種類です。

クサトベラ群落

モンパノキ

海岸植物のアダン群落

注意事項とご協力のお願い

○万座毛一帯は沖縄県指定の文化財保護区域となっております。無許可での改変は法律で禁止となっております。

○植物の持ち出し、持ち込み禁止。

○景観と植物の保護地域となっております。そのため、文化財保護の観点と観覧者の安全確保のために陸域の上空はドローン飛行禁止とさせていただいております。

○景観と植物群落の保護にご協力お願いいたします。持続可能な文化財保護及び管理のため、皆様のご理解とご協力のほどお願いいたします。

アクセス

自動車

【那覇空港から一般道を利用する場合】

約1時間15分。那覇空港から国道331号線を北向けに進み、国道58号線に左折したら、北向けに走る。恩納村に入ったら、「万座毛」の案内板を目印に左折して約1分

【沖縄自動車道を利用する場合】

上下線ともに、沖縄自動車道「屋嘉IC」で下りて約10分

※時間は道路状況によって変動します。

路線バス

那覇バスターミナルから北向け20番、28番、29番、120番、228番を利用し、恩納村役場前バス停下車、徒歩約20分

近くの観光施設から

沖縄美ら海水族館から車で約1時間10分

恩納村教育委員会　社会教育課　文化係（恩納村博物館内）
〒904-0415　沖縄県国頭郡恩納村字仲泊1656-8　TEL098-982-5112

沖縄県指定　名勝

万座毛

万座毛は、恩納村役場の北西に位置する岬で、切り立ったサンゴ礁の芝生台地になっています。

岬の先端に立つと、コバルトブルーの海が広がり、打ち寄せる波が岩に砕け散って、眼下には白い波の花が咲いているのが見えます。また名護湾をまたいだ北方には、北部半島の山並みや、伊江島タッチューを望み、東方には恩納村のシンボルである恩納岳が雄大な姿を見せています。

尚敬王が1726年に万座毛を訪れ「万人を座らせるに足る」と褒め称えたことから、万座毛と名づけられたといわれています。

Manzamo is promontory northwest of the Onna municipal office, and is a flat, grassy area on a sheer coral reef. From the edge of the promontory, one can see an expanse of cobalt-blue sea. The waves breaking on the rocks throw up a white spray just below one's eyes. Nago Bay to the north, the mountains on the northern part of the peninsula, the Iejima Tacchu, and Mt.Onna, the sy,bol of village of Onna in the east, from a truly magnificent sight.

King Shokei visited Manzamo in 1726. He preised the site, saying that it was worth letting 10,000 people sit and enjoy the area. This is the origin of the name in Japanese.

恩納村教育委員会

名勝地としての景観

万座毛は、四季折々のいろんな景色を見せてくれる場所となっています。コバルトブルーの東シナ海が前面に広がる景観と後方には恩納村を代表します恩納岳の雄大な景色がご覧いただけます。時には、荒波が石灰岩台地の壁面にぶつかるなど自然の激しい一面もみられます。

万座毛から見える海

北側上空から見た恩納岳と万座毛

海の深いところ浅いところでコントラストがみられます。この海域ではサンゴの養殖事業が行われています。

万座毛の地形

万座毛一帯は主に琉球石灰岩で構成され、石灰岩堤、ノッチ、キノコ岩、海食洞、波食台などで形成されています。万座毛の海底には2箇所ほど海底鍾乳洞が確認されています。万座毛から見て北東側にはトベラと呼ばれるキノコ岩がみられます。

万座毛からみえるトベラ

恩納岳の由来

恩納岳は、安富祖から見れば安富祖に向かっていて、恩納から見れば恩納に向かっていたからね。安富祖からみれば安富祖に向かっていて、恩納からみれば恩納に向かっていたので、どこの名を付ければいいのかということになり、山登りの勝負で決めることになったんだ。勝負したら恩納が勝って、それで「恩納岳」と付けたそうだ。昔の人の話。

恩納ナビーの歌碑

波の声もとまり　風の声もとまり
首里天加那志　美御機拝ま

歌意は、「波も風も穏やかになってほしい。はるばる国王が万座毛に立ち寄られるのだから、その顔を拝みたいものだ」昭和3年に建立されたが、第2次世界大戦後に移設を余儀なくされました。現在の歌碑は、碑建立50周年を記念して、昭和54年に建てられたものです。なお、書体は沖縄書道界の大家・謝花雲石氏によるものです。

巌谷小波の句碑

童話作家の巌谷小波が琉歌で知られる恩納ナベの歌碑を訪れた昭和7年秋（碑には昭和6年とある）に詠んだ句を後世に残そうと、恩納村教育委員会が昭和58年に碑を建立しました。

句碑には「しぐれけりおんな詩人の碑を訪へば」の詩句が刻まれています。

書体は、佐久本興吉氏。